

## 短 報

***Coptis japonica* (Thunb.) Makino 及び *Coptis anemonifolia* Siebold & Zucc. var. *dissecta* Yatabe のタイプ** (大場秀章)

Hideaki OHBA: On *Coptis japonica* (Thunb.) Makino and the Lectotype of *C. anemonifolia* Siebold & Zucc. var. *dissecta* Yatabe (Ranunculaceae) (Notulae ad plantas Japoniae 9)

キクバオウレン *Coptis japonica* (Thunb.) Makino (広義) には葉形の幅広い変異が見られ、その分類体系上での位置付けでは佐竹 (1949) の見解が支持されている。セリバオウレンは葉の切れ込み程度でキクバオウレンとコセリバオウレンの中間にあり、地理的分布でも日本海側に偏る前者と太平洋側の後者の分布域を含めた本州と四国の広い範囲に分布する。

佐竹は Thunberg が記載した *Thalictrum japonicum* にもとづく *Coptis japonica* (Thunb.) Makino をキクバオウレンに当たるものとした。しかし、ウプサラ大学に保管されるそのタイプ (No. 13054 で、IDC のマイクロフィッシュでも判別はつく) は明らかにコセリバオウレンである。キクバオウレンに該当する学名として最初のものは矢田部が正しく適用しているように Siebold と Zuccarini による *Coptis anemonifolia* である。キクバオウレンとセリバオウレンを変種関係にあるとすることが、さらに検討が必要であるが、ここでは佐竹に従って変種とする際の学名を提案する。

セリバオウレンの学名に佐竹は *Coptis japonica* var. *dissecta* を採用した。しかし、セリバオウレンに対して与えられた最も古い学名は Miquel (1867) が Siebold と Zuccarini の *Coptis brachypetala* の変種として発表した var. *major* である。佐竹はこれをコセリバオウレンとしたが、記載からはコセリバオウレンとは考えにくい。

一方、var. *dissecta* の出典は、矢田部良吉の「日本植物編」(1900) に出た *C. anemonifolia* Siebold & Zucc. var. *dissecta* Yatabe である。これは日本語で、“葉ノ区分二回羽状ニ深裂ス。”との記載を伴い、国際植物命名規約上、有効である。しかし、当時として

はよくあったことであるが、矢田部は産地を“諸山”とするだけで、原記載には産地も標本も記されていない。先に述べたようにセリバオウレン自体変異に富み、矢田部のセリバオウレンのタイプを選定しておくことは分類上の混乱を回避するためにも必要である。

矢田部の var. *dissecta* のタイプやその標本については佐竹をはじめとする研究者からは何のコメントもない。東京大学総合研究博物館が収蔵する標本には矢田部の手記が残るセリバオウレンの標本は1点もない。「日本植物編」初版の発行は矢田部死後の1900年であるが、巻頭の松村任三の“日本植物編上梓に就きて”によると、学務多忙となる以前には脱稿もしくはそれに近い状態まで完成していたと思われる。そこで、矢田部の序のある松村任三の「帝国大学理科大学植物標品目録」(1886) に引用された標本を検討してみることとする。この目録の中では、矢田部の var. *dissecta* は採用されておらず、種の *C. anemonifolia* キクバオウレンとして、北海道、信州駒岳、加州白山の3地点を挙げている。これらの引用に対応すると見なされる標本はいずれも東京大学に保存されており、そのうち、“加州白山”(加賀白山湯本, 1881年8月6日, [矢田部良吉・松村任三採集]) 及び“信州駒岳”(信州駒岳麓, 1880年8月2日, [矢田部良吉・松村任三採集]) として引用された標本は明らかに今日いうセリバオウレンである(もっともこの目録ではセリバオウレンは、*C. brachypetala* (すなわち、今日いうコセリバオウレン) の和名に当てられている。またキクバオウレンに引用された上記以外の標本は北海道産でこれは狭義のキクバオウレンである)。

上記の白山と駒ヶ岳の標本は原記載に直接引用されてはおらず、また標本自体にも矢田

部の手記を伴うものではない (ラベルには *C. anemonaefolia* との手記があるがこれは松村任三による)。しかし、この2点の標本は、当時の状況や慣習から、矢田部が var. *dissecta* を発表するに際して実際に利用した標本であると考えられるので、シタイプとして扱いたい。矢田部が記載でセリバオウレンの産地を諸山と書いたことは、白山や駒ヶ岳の他にもセリバオウレンの産地があることを矢田部自身の見聞あるいは別の標本等から知っていた可能性は残るが、それを裏付ける証拠は存在しない。白山と駒ヶ岳産の2点のシタイプのうち、佐竹 (1949) の Fig. 2 の b として図示された葉形に類似する白山産を var. *dissecta* Yatabe のレクトタイプとして選定する。なお、キクバオウレン (広義) の分類については稿を改めて報告する予定である。

***Coptis japonica* (Thunb.) Makino** in Bot. Mag. Tokyo **13**: 198 (1899). Satake in J. Jap. Bot. **24**: 74 (1949).

var. ***japonica***

*Thalictrum japonicum* Thunb. in Trans. Linn. Soc. (London) **2**: 337 (1794).

Type: Japonia. Herb. Thunberg no. 13054.

*Coptis brachypetala* Siebold & Zucc. in Abh. mat.-phys. Cl. k. Baier. Akad. Wiss. **4** (2): 180 (1845) [nom. illegit.]

Japanese name: Ko-seriba-ôren.

var. ***anemonifolia*** (Siebold & Zucc.) H. Ohba, stat. nov.

*Coptis anemonifolia* Siebold & Zucc. in Abh. mat.-phys. Cl. k. Baier Akad. Wiss. **4** (2): 180 (1845). Miquel in Ann. Mus. Bot. Lugd.-Bat. **3**: 8 (1867).

*Coptis japonica* (Thunb.) Makino var. *ja-*

*ponica* sensu auct. non Thunb. (1794); Satake in J. Jap. Bot. **24**: 74 (1949). Ohwi in Fl. Jap.: 537 (1953); Fl. Jap. rev. ed.: 634 (1965); Fl. Jap. new ed.: 634 (1975). Kitamura & Murata, Col. Ill. Herb. Pl. Jap. **2** (Choripet.): 213 (1961). Tamura & Shimizu in Satake et al., Fl. Jap. Herb. Pl. **2**: 87 (1982).

Japanese name: Kikuba-ôren.

var. **major** (Miq.) Satake in J. Jap. Bot. **24**: 74 (1949).

*Coptis brachypetala* Siebold & Zucc. var. *major* Miq. in Ann. Mus. Bot. Lugd.-Bat. **3**: 8 (1867).

*Coptis occidentalis* Nutt. var. *japonica* Huth in Bull. Herb. Boiss. **5**: 1086 (1897).

*Coptis anemonifolia* Siebold & Zucc. var. *dissecta* Yatabe, Nihon-shokubutsu-hen: 46 (1900).

*Coptis japonica* (Thunb.) Makino var. *dissecta* (Yatabe) Nakai [ex Honda, Nom. Pl. Jap.: 95 (1939)] ex Satake in J. Jap. Bot. **24**: 74 (1949).

Japanese name: Seriba-ôren.

Lectotype of *Coptis anemonifolia* var. *dissecta* Yatabe: Japonia in Honshu: Prov. Kaga [Ishikawa Pref.], Mt. Hakusan, Yumoto. Aug. 6, 1881. [Yatabe & Matsumura s.n.] (TI, here selected).

Another syntype of var. *dissecta*. Japonia in Honshu: Prov. Shinano, Mt. Komagatake, Fumoto. Aug. 2, 1880. [R. Yatabe & J. Matsumura s.n.] (TI).

(東京大学総合研究博物館)

#### アズマシロカネソウの重弁花 (大場秀章)

Hideaki OHBA: The Double Petaloid Form of *Dichocarpum nipponicum* (Franch.) W.T. Wang & P.K. Hsiao (Notulae ad Plantas Japoniae 10)

シロカネソウ属は花弁状となる萼と蜜腺様となる花弁を有する。アズマシロカネソウで、9 または 10 個の重弁状に配置する花冠様萼片

及び 4 または 5 個の蜜腺様花弁をもつ個体が松澤篤郎氏によって最近見出された。形態学上興味深いので品種として記載しておく。フ